

# 座談会 生まれ変わった 名古屋学院大学

2007年4月、名古屋キャンパスが開設されて半年を経過しました。名古屋学院大学の43年振りの里帰りにより、今後は大きな変革期を迎えます。伊藤理事長と小嶋学長、占部同窓会会長が出席し、母校の将来への方向性について座談会を行いました。



伊藤信義

名古屋学院大学 理事長

小嶋博

名古屋学院大学 学長

占部憲一

同窓会 会長

出席者



## 21世紀の

## 「都市型大学」ブランドを 目指す

占部会長(以下占部に略) 4月に名古屋キャンパスが開設されて半年が過ぎました。瀬戸から名古屋へと、大学を取り巻く状況がかなり変化されたと思います。これからの名古屋学院大学の方向性、名古屋キャンパスの良い点、移転して良かった点などをお聞かせください。



伊藤理事長(以下理事長に略) 良いところはたくさんあります。授業の出席率が上がっていると

いうデータが出ています。瀬戸キャンパスの頃は、電車やスクールバスに乗り遅れたりすると、欠席になってしまう学生がいたと聞いています。名古屋キャンパスに移ってからはそういうことが少なくなってきたようです。学生にとって、交通の便が良くなったことがいい効果を出しています。

瀬戸キャンパスに比べて、まとまりの良いキャンパスですので、今までよりは学生の交流ができるようになってきているという気がします。あまり良くない点は、今約3,800人程いる学生が昼休み等になると二気に講義室から出てきて食堂が大変混雑すること。また、特に雨天の日は学生の行き場がなくなることでしょうか。学生が過ごしやすい環境を整備する上で、2年以内

に方向付けをして、新たな施設を作らないといけないと考えています。

また、広大な瀬戸キャンパスと異なり、学生との距離感がなくなってきたように思います。身近で学生の様子がわかるということは、教育上も大学運営上も良い点ですね。

占部 都会に戻って来たことが、かなり良い流れになっているようですね。確かに名古屋キャンパスは交通の便も含めて非常に素晴らしい環境にあると思います。アメリカのアイビーリーグのような、スタイリッシュな感じを受けました。

小嶋学長(以下学長に略) 一実感するのが、大学名にふさわしいキャンパス環境になったとい



うところですか。地下鉄で通学できる。2年生以上の学生は瀬戸と名古屋で学生生活を送ることができ、2つのキャンパスで過

せる喜びを感じてもらっていると思います。名古屋キャンパスは近くに公園や川があり、立地が素晴らしいですね。学生たちには建物の屋上から一度周りを見渡してもらいたいと日々考えています。先日、オープンキャンパスに来た高校生とご父母が、屋上からの景色を見て「きれいだな」と感想をもらっていたことが印象的でした。

話題を名古屋学院大学の方向性に変えて申し上げると、地域と大学との結び付きを強化